



**清淨光明ならびに遇斯光のゆゑなれば
一切の業縡もごむるにめ畢竟体を帰命せよ**

秋が深まり、霧が里をつづみこみ、朝夕肌寒い季節になつてきました。濃いキリに閉ざされた遅れた朝に差し込む陽光は、一切の塵を霧の中に振り落としクリーンであり、天高く広がる秋空は青く、野も山も澄み渡り、素敵な秋の日となつて広がります。阿弥陀様の光は「んな清淨光明」で、私たちの心のキリを晴らしてくれたのだと思ひます。

毎月お正信偈を四行ずつ進み、それにまつわるお話をしてまいりました。そのあと、正信偈をおの後に唱和する六首の「和讃」を一首ずつ頭に置いてお話を続け、今回で五首目となりました。「和讃」というのはお正信偈のよう漢文で書かれたものではなく、和語をもつて讃嘆する詩」という意味だそうです。親鸞聖人が撰述された今様形式の和讃は五百首をこえ、とくにそのなかで『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』をまとめて『三帖和讃』と称しています。『浄土和讃』は、經典などによつて阿弥陀如来とその淨土の徳を讃嘆したもので、「冠頭讃」二首、「讀阿弥陀仏偈讃」四十八首、「大経讃」二十二首、「觀經讃」九首、「現世利益讃」一五首、「勢至讃」八首、合計一八首からなつており、とくに「讀阿弥陀仏偈讃」のはじめの六首は、「正信念佛偈」とともに門信徒が朝夕読誦する和讃として、ひろく知られています。

毎年行われる念佛奉仕団（今年は残念ながらコロナウイルスの流行のため中止になりました）

前六時より両堂で勤められます。なお、開門時間は午前五時三〇分です。・・・本願寺ホームページ（以下）に参加された方はご存じですが、「三

帖和讃」が六首」と繰り読みされており、その日にどの和讃が読まれるか、あらかじめ調べておかないとついていません。晨朝はだれでもお参りできますので、京都で泊まる「こと」があれば、少し早く目覚ましてお参りしてみてください。また、本願寺では夕刻4時から日没

勤行（にちもつごんぎょう）として阿弥陀堂で「重誓偈」、御影堂で「正信偈」がお勤めされますが、時間が少し遅いので、参拝される機会が少す。時間が少し遅いので、参拝される機会が少す。晨朝は法話・御文章拝讀まで含めて、一時間ほどかかりますが、日没勤行は阿弥陀堂と御影堂併せて一一～一三分くらいで終わります。

お経を唱えるスピードが、すさまじく早いのです。西本願寺の洗練された式務の凄さを感じます。西本願寺の洗練された式務の凄さを感じずにはおれません。これは石山本願寺（現在の大坂城の地にありました）時代に、織田信長に一年間攻められた折、戦火の中ゆづくりとお勤めができず、寸暇を惜しんで読經されたことに由来するそうです。

十一月の二十一・二十二日には勝林寺の報恩講が勤まります。夜のお勤めはお正信偈の“文類節”という普段聞きなれない節回しのお勤めです。例年なら出石町のご住職の皆様にご出勤いたします。お参りください。（文責 住職）

お知らせ

報恩講をお勤めします

十一月 勤め予定

日時 十一月二十一日（土）

三日（火）

森井由美子宅 墓遷式

午後 六時より御伝鈔拝讀

五日（木）

谷垣久司宅 三回忌

八時二十分より法話

六日（金）

中島茂喜宅 三回忌

十時よりお勤め

七日（土）

齋藤自信宅 三回忌

十時五十分より法話

八日（日）

石田久美子宅 一周忌

おみがき 清掃奉仕

関川一男宅 一二回忌

澤田貞彦宅 一三・一七回忌

中止とさせていただきます。なお、法要中、換気のため扉を開けることがありますので、感染予防とともに寒さ対策をお願いいたします。

本年は、コロナウイルス感染予防のため、バ

スでの送迎並びにお斎（おとき）は中止させていただきます。ご了承ください。それに伴い、例

年代議員様にお世話になるお斎米と野菜の集納

も中止とさせていただきます。

平野洋治宅 一周忌

納骨式を務めさせていただきます

二六日（木）

日殿・保谷 報恩講

た。ご遺族十九名の参加をいたただ

二七日（金）

佐田・栗尾 報恩講

き、短い時間ではありましたが、肅々と勤める

二八日（土）

口栗尾 報恩講

ことができました。阿弥陀さまのお働きによ

二九日（日）

西宗寺 報恩講

り、すでにお浄土に往かれ仏となつていただい

三十日（月）

奥小谷 報恩講

ているとは思つていても、先に往かれたご門徒

の皆さん待つておられる大谷本廟にお納めし

ない、なんとか申し訳ないような気持ちがして

いましたので、ようやく安堵いたしました。き

つと今頃、にぎやかにしておられる事でしょ

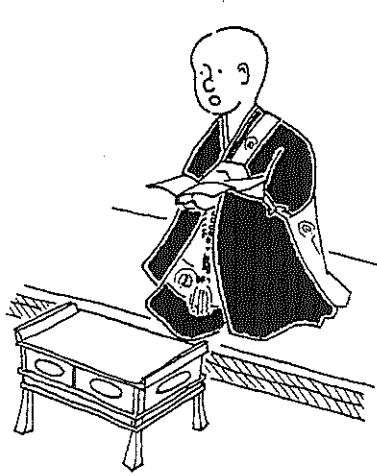
う。当日は、さわやかな秋晴れの広がる一日で

したので、遠方よりお参りいただいたご遺族の皆様も亡き方納骨のご縁で、京都の秋を楽しんでいただけなのではないかと思います。うれしい一日でした。

葬儀

十月二十八日

榎見 湯口 年枝様 九十一歳



（敬称略）

今日の若い人の中には、このように自分の人生の根柢について、頼みもしないのに親が一方的に生んだもので、すべて親に責任があるのだと考えたり、あるいはまた、運命によつてそうなつたのだ、と考えるものが多いようです。しかしながら、そういう考え方のところでは、とかく人生におけるさまざまな出来事の原因を、すべて他人の責任や運命のために転嫁して、それに対してもう少し、うらみをいだくようになつてきます。また時には、自分自身の自主的な努力を忘れて、いたずらに他人の力や運命に期待を寄せ、それにたよつて生きるというような態度をもつことになります。人間というものは、人生がうまくひらけてきた時には、とかくそれを自分の手柄として誇ろうとしますが、人生が裏目に出てた時には、それをすべて他人の責任にしたがるものです。だがそういうことは、まことに無責任な態度だといわねばなりません。現代人の中には、こういう態度を持つ人が案外多いのではないか。何か自分が責任は問わないで、すぐに他人が悪いからだとか、社会が悪いからだと言つて、他を攻撃する人があります。また運が悪かつたとか、運がついていなかつたからだと言つて、簡単にあきらめてしまふのがあります。いずれも自分の人生を、自分自身の責任として背負うて生きるという心の欠けた、無責任な生き方といわねばなりません。

もちろん私たちも、自分の生活を守り、それを向上させるために、社会や政治の責任を追求することを忘れてはなりません。ことに今日の社会構造においては、何もかもが深く政治にかかわっています。コメの値段も、電車の料金も、すべて政治によつて決定され



(「信楽俊麿『真宗入門』より引用」)

(次号に続く)

ます。私たちの毎日の生活は、政治を食べた

り、政治に乗つているようなものです。その

点からして、政治の責任を明確にするとい

うことはとても大切なことです。また時

には、もはや打つ手もなく、すべて運命に任

す。この言葉が使われている詩を、鑑賞してみ

ましよう。

なんだかうれしくて

「無理せんといてください」

「無理をしないで休んでいてください」

腰が曲がつて

ひどく小さくなつてしまつた老妻に

何べんも気づかつてもらいながら

土手の草を刈る

何だか

うれしく

何だか

しあわせで・・・

「あわせで・・・

おがまれている

ほほ悲しく、不満足であり、また厳しかろう

人生のさまざまなかつら

とも、そのことをいたずらに他人の責任にし

たり、それに対してグチをもらすことに終わ

文し、私が逃えた、私の人生だと思うて、し

つかりと自分自身の責任として背負うて立つ

こそ、私たちの人生に対する、もつとも大切

な心の姿勢だと思います。



東井義雄師の最晩年の詩集の中にある言葉です。この言葉が使われている詩を、鑑賞してみます。私たちの毎日の生活は、政治を食べたばかりの私。そんな私を休むことなく「おがんで（つづみこんで）」おられる阿弥陀さま。これは大悲無倦の徳を表したものと読みます。(月々のことばより抜粋)

実りの秋です。皆さんのお家で

は、お米の収穫が終わり、さつまいもや里芋ほりの頃でしょ

う。大根や白菜も大きくなり、

んなーと思案中でしようか。勝林寺には

田んぼはもちろんありませんし、畑はすつかりカールの遊び場になつてしまいま

した。それでも「収穫の秋」はやつてきました。まず収穫したのはすだちです。

いつだれが植えたのか記憶が定かではありませんが、初めての収穫でした。小さ

な木ですが、二十個くらいなりました。

すだちうどんにしたり、サンマの塩焼きに絞つたり、住職の晩酌の焼酎に入れた

りしたら、あつという間になくなつてしましました。そのお隣にあるのはみかんです。ここ数年、毎年実をつけますが、

今年は最高の収穫量。少し黄色くなりかけた九月の終わりくらいから食べ始めました。ここ数年、毎年実をつけましたが、まだなくなりません。小さいけ

つけた九月の終わりくらいから食べ始めたが、わざかに残つた枝の高いところに実をつけました。脚立に乗つた住職がぼる

てくれました。脚立に乗つた住職がぼる人、下で私が受ける人、息の合つた連係プレーで収穫しました。最後に残つたのはキーウィ。昨年枝を大胆に切つたの

は大きいみたいで楽しみです。柿とキーワイは、毎朝食べるヨーグルトの中に入ります。なーんにもお世話せずに、美味しい実をいただくだけで、木に申し訳ないですが、きっと美味しいただく」と

美味しい実をいたくだけ、木に申し訳ないですが、きっと美味しいただく」と

美味しい実をいたくだけ、木に申し訳ないですが、きっと美味しいただく」と